

宮島沼歳時記

1月~2月



銀 世界。宮島沼は雪に覆われ真っ白になる。雪の上にはキタキツネやエソヤチネズミなどの足跡が観察できる。ただしカンジキやスノーシューがないとたももまで埋まってしまうので要注意！ハイタカ、ノスリ、アカゲラ、ヒヨドリ、エナガ、ハシブトガラ、シジュウカラetc。

3月

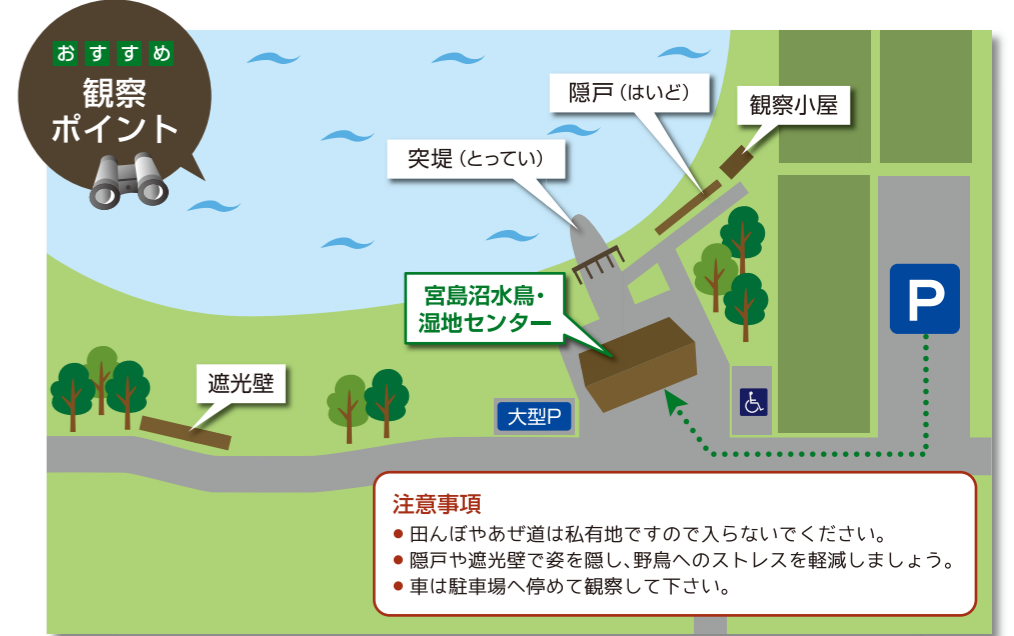


寒 さがゆるみ、水面が見えてくると、オオワシ、オジロワシが姿を現す。上旬にはマガンの偵察隊が飛び始めるが、凍った宮島沼にはまだ降りない。やっとねぐら入りし始めるのは下旬で数百羽ほど。カワアイサ、ミコアイサ、ヒバリ、ツグミ、カワラヒワ、ムクドリetc。

4月上旬



雪 融けが進み田んぼが見え始めると、数千羽のコハクチョウが飛来する。日中は周辺田んぼで落モミを採餌し、沼には暗くなってからねぐら入りする。ねぐら立ちは日の出の後、一家族ずつゆっくりと。マガン、ヒシクイ、カイツブリ、ヨシガモ、ハシビロガモ、ホシハジロetc。



4月中旬~下旬



マ ガンシーズン到来！沼開け(宮島沼の氷が全て融けること)すると周辺に分散していたマガンが宮島沼に集結する。最大飛来数は6万~7万羽。この近さで見えるマガンのねぐら入り・ねぐら立ちは圧巻。一生に一度は見ておきたい。マガンのねぐら立ちは見た後は、夏鳥観察もおススメ。

5月~6月



夏 鳥の季節。ヨシ原や河畔林では、ノビタキやオオヨシキリ、カッコウなど、種々のさえずりがそこかしこで聞こえ、子育て準備に大忙しの様子。「ジョウビト、カケタカ」エソセンニューウがさえずったら夏鳥は勢揃い。初夏の花が次々に咲き始め、湿原や防風林は彩であふれてくる。

7月~8月



湿 原の小鳥たちはめっきりさえずらなくなるが、葉影に隠れて巣立ち雛の姿がチラホラ。緑や青のトンボが飛び、ヒシの花が満開になる。水辺ではミスカマキリ、コオイムシ、ゲンゴロウの仲間など生き物がわさわさ。黄色に色づいた小麦の刈取りが始まり、田んぼでは稲が花盛り。

9月



田 んぼで子育てをしていたカルガモが子連れで宮島沼にやってくる。北からもカモ類が続々と渡ってくるが、エクリブス(非繁殖羽)のため識別は難しい。小鳥は群れを作り渡りの準備中。カモや小鳥を狙ってハヤブサ、チゴハヤブサ、オオタカ、チュウヒなど猛禽類も観察できる。

マガンのねぐらと餌場



マガンは、夜は宮島沼でねぐらとり、日中は田んぼで落ちモミを食べています。マガンが宮島沼に集まるのは、安心して休める沼とエネルギーを蓄える餌場があるから。マガンを支えているのは「農業」なのです。宮島沼でのマガン観察は、「早朝のねぐら立ち」「夕方のねぐら入り」がおススメです。

マガンは渡り鳥

マガンは毎年春と秋、極東ロシア(繁殖地)と宮城県(越冬地)とを行ったり来たりしています。宮島沼は、長い渡りの途中で羽を休め、栄養を補給するための大切な中継地です。



9月下旬~10月上旬



稲 刈りが終わる頃、遠い極東ロシアからマガンが渡ってくる。今夏産まれた幼鳥も一緒だ。最大飛来数は5万~6万羽。天気によるが、秋は日中でもマガンが宮島沼に戻ってくる事が多い。マガンの中にシジュウカラガンやカリガネ、たまにハクガンが混じる。

10月~11月



沼 が凍る11月中旬までは、カモ類が観察できる。普段は見られない野鳥が渡り途中で立ち寄るので見逃し注意。10月下旬には雪虫(トドノネオオワタムシ)が飛び、ツグミの声が聞こえると冬の到来を感じる。ヤマゲラ、カシラダカ、アトリ、マヒワ、ベニマシコ、シメ、カケスetc。

12月



氷 点下の朝。日中でも0℃を超さなくなり、降った雪が融けなくなる。イグルー作り、かんじき散策、雪合戦。雪遊びをしよう。ただし、農村地帯の真ん中にある宮島沼は、降雪がなくても強風による地吹雪で視界がなくなることも多い。天気確認を忘れずに。